

政治・経済 日本の少子化対策を考える I (ワークシート 1)

※ これ以降、赤字は生徒の解答例、青色は参考事項

STEP0 少子化問題を解決するために、日本は今後どのような対策をとればよいか。今の自分の考えを簡潔にまとめよう。

子育て費用への社会保障費の割り当ての増加 育児費用の補助金 企業の育児への理解
結婚しやすい、子供を育てやすい労働環境 自助・公助・共助全部が大切

生徒の既有的の知識を確認させつつ、最終のまとめとの施行の変遷を見とれるようにする

STEP1 なぜ、少子化が進むのだろうか。既有的の知識から、自分の考えを簡潔にまとめよう。

【内閣府の見解】少子化に影響を与える要因として、非婚化・晩婚化及び結婚している女性の出生率低下などが考えられる。1970年代後半からは20歳代女性の未婚率が急激に上昇したほか、結婚年齢が上がるなど晩婚化も始まり、1980年代に入ってから、30歳以上の女性の未婚率も上昇しており、晩婚と合わせて未婚化も進むこととなった。

1985年に男女雇用機会均等法が成立し、女性の社会進出が進む一方で、子育て支援体制が十分でないことなどから仕事との両立に難しさがあるほか、子育て等により仕事を離れる際に失う所得(機会費用)が大きいことも、子どもを産むという選択に影響している可能性がある。

また、多様な楽しみや単身生活の便利さが増大するほか、結婚や家族に対する価値観が変化していることなども、未婚化・晩婚化につながっていると考えられる。

最低限抑えたい内容として、これを提示した

STEP2 少子化が進むと何が問題になるのだろうか。自分の考えを簡潔にまとめよう。

【厚生労働省の見解】

1 経済的影響

- 生産年齢人口の減少と、短時間勤務を希望することの多い高齢者の割合の増加により、労働力供給が減少する
- 高齢化の進展により、年金等社会保障の分野において、現役世代の負担が増大する

2 社会的影響

- 単身者や子どものいない世帯が増加し、社会の基礎的単位である家族の形態も大きく変化するとともに多様化する(単身高齢者の増加は、介護その他の社会的扶養の必要性を高める)
- 子ども同士の交流の機会の減少や過保護化などにより、子どもの社会性がはぐくまれにくくなる
- 過疎化がさらに進行し、現行の地方行政の体制のままでは、市町村によっては住民に対する基礎的なサービスの提供が困難になる



最低限抑えたい内容として、これを提示した

STEP3 そもそも、少子化は本当に問題なのだろうか。個人の自由の問題ではないのだろうか。自分の考えを簡潔にまとめよう。

少子化が国全体に与える経済的・社会的な影響を考慮すると、個人の自由の問題で済ませてよい問題ではないと思われる。

少子化は現在世代だけではなく未来世代の負担も増える。

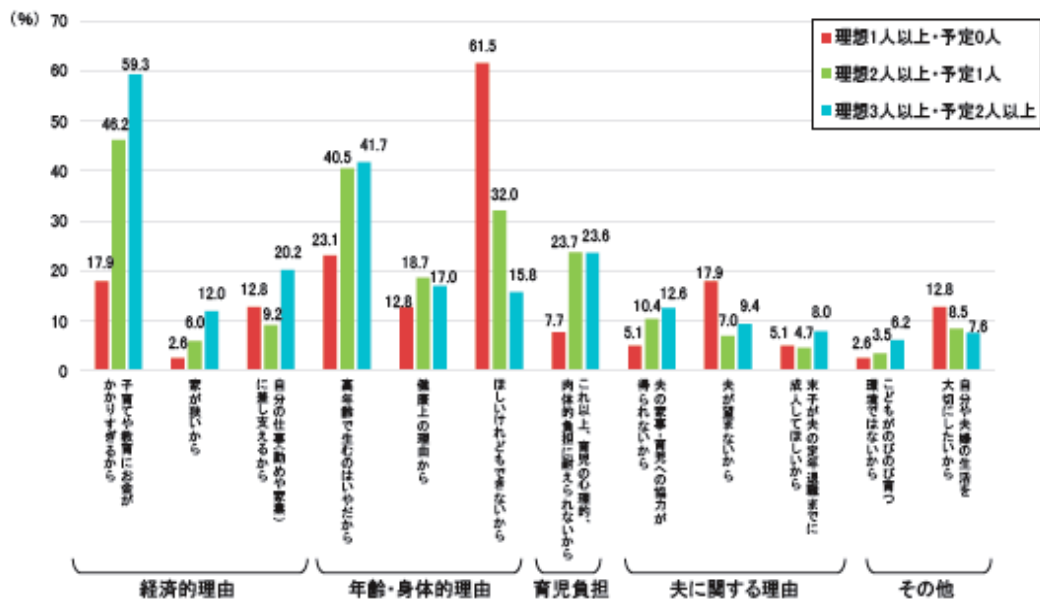
少子化対策は不要という意見もあることを紹介しつつ、生徒にこの問題を自分事であり国家の問題として認識してほしいと思い考察させた。(個人の自由の問題と答えた生徒はいなかった。)

少子化の問題点 (NHK HP より)	少子化対策 (こども家庭庁 白書)
	

STEP4 日本では現在、どのような少子化対策が行われているのか。実施主体ごとにまとめよう。

<p>国 地方自治体 (黄色)</p>	<p>働き方改革の推進 児童手当の拡充 こども保育園を増やす 雇用形態による差別をなくす 就学支援 結婚支援 「家族の日」の制定 産後パパ育休 男性の育児休業取得率の向上 こども支援のための税金を増やす 若い世帯の所得を増やす政策の実施 子育て支援に顕著な功績のある企業を表彰する 待機児童の解消 母子保健医療体制の充実 不妊治療費の助成 こども医療費の無償化 出産費用の無償化</p>
<p>企業 (緑)</p>	<p>多様な勤務形態の整備 (テレワークの推進、フレックスタイム制度の導入、裁量労働制) 家庭と仕事が両立できるように業務内容を見直す ワークシェアリングの推進 長時間労働の解消 残業時間の可視化 AI を活用して労働生産性を上げる 事業所内保育施設の設置 時間単位の年休の取得を容易にする 企業が育児支援手当を支払う ベビーシッター派遣ビジネス</p>
<p>地域コミュニティー (青)</p>	<p>コワーキングスペースを運営する 結婚支援事業 (相談ブースの設置など) 高齢者による子供の預かり 育児に関する情報の提供 トワイライトスクールの運営 子育てアプリの開発 育児サークルの運営 子育て世代の交流の場を増やす 子ども食堂の運営</p>
<p>個人 (白)</p>	<p>貯蓄を増やす 子育てに理解ある企業への就職 しっかりとしたライフプランを立てる 多様性への配慮 子育て政策を充実させてくれる政党に投票する お互いを思いやる コミュニケーションを大切にする 育児教室への参加 責任感をもつ</p>

生徒は自分が担当する主体について調べ、まとめる。まとめたものは、第二次にグループで発表しあい、情報を共有する。



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「第18回出生動向基本調査」(夫婦調査)(2021年)を基に作成。
(注) 対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る、妻の調査時年齢50歳未満の初婚同士の夫婦。複数回答のため合計値は100%を超える。

政治・経済 日本の少子化対策を考えるⅡ（ワークシート2）

STEP1 グループ内で少子化対策の具体例を発表しよう。

他の人の発表を聞いて、付け加えるものがあれば下の表にまとめよう。

時間があれば、あまり具体例が出なかった観点からの政策を追加調査しよう。

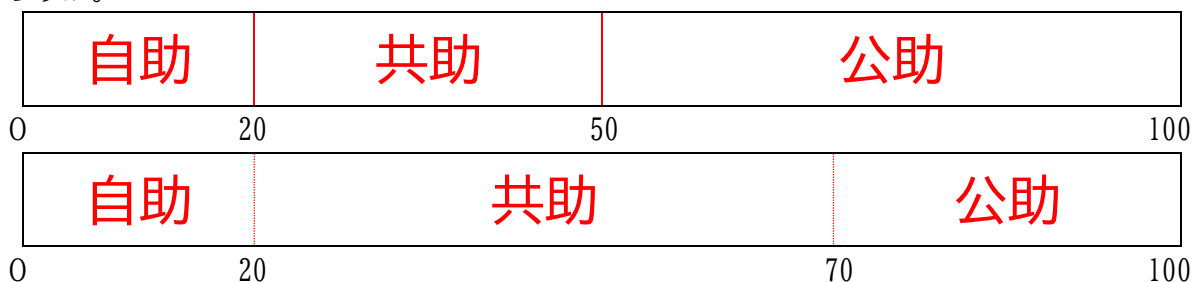
※内容はワークシート1のSTEP4と同じ

STEP2 グループで少子化対策の具体例を分析しよう。

I 子育て政策に関する三つの考え方を理解しよう。

重視するもの	考え方
自助	日本ではすでに、低所得者世帯に対する保育所の利用料が減免されている。所得にかかわらずに保育料を無料にしても、待機児童の問題は依然として残る。また、児童手当もすでに支給されており、これ以上の拡充は財政赤字を拡大させることになる。このため、自助による育児支援として、民間の保育事業を増やすことが効果的である。
共助	かつての日本では、乳幼児をもつ家庭を近隣同士で支えあっていた。たとえば、近所の住民が幼児を預かったり、子育てに悩む若い親の相談相手になったりすることもあった。しかし、地域社会の希薄化とともに、このような共助の光景は少なくなっている。
公助	三世帯世帯であれば、乳幼児の世話を祖父母に頼むことができる。また、地域の助け合いが日常的におこなわれているならば、近隣の人に一時的に子どもを預けることもできる。しかし、現在の日本では核家族化と都市化が進んでおり、祖父母や近隣住民に頼ることができない親が多くなっている。特にひとり親世帯の場合は、社会から孤立して子育てをせざるをえないことが多い。民間の認可外保育所や学童保育を利用する場合、その費用は比較的高くなることもある。したがって、育児を社会全体でおこなう発想が必要になっている。

II Iの考え方を踏まえて、少子化対策は自助・共助・公助をどのような割合で実施していけばよいだろうか。



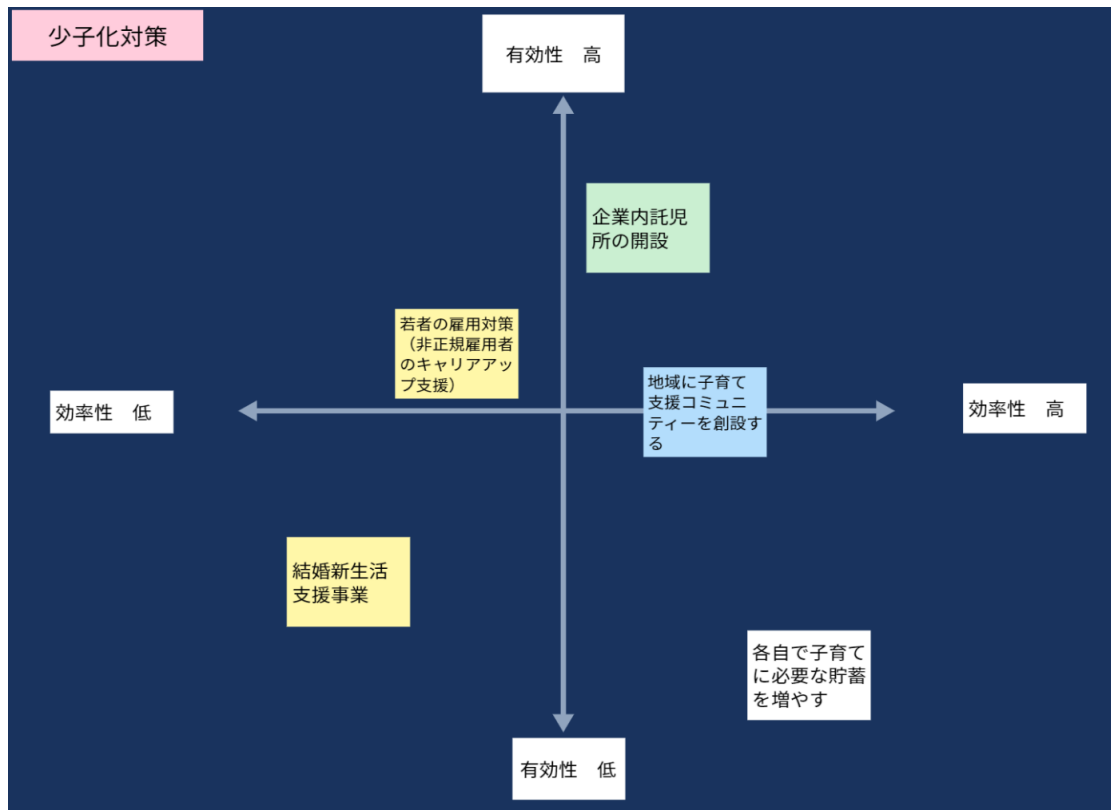
III STEP1 でまとめた少子化対策を、評価軸を決めてロイロノート上で整理しよう。

【整理の手順】

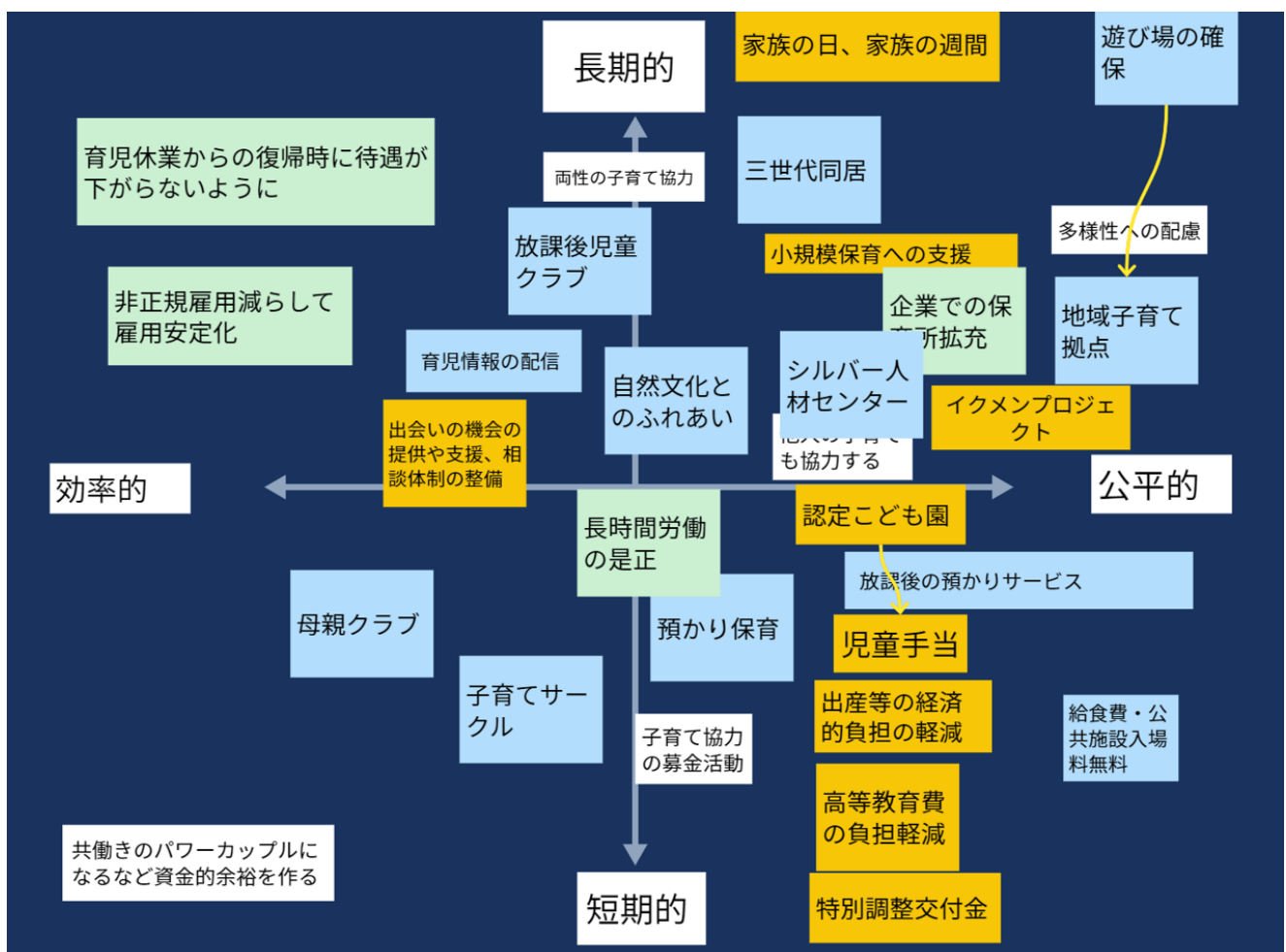
- ① 少子化対策のタイトルを付箋に記入する。付箋の色は国・地方自治体（黄色）、企業（緑）、地域コミュニティ（青）、個人（白）とする。
- ② 少子化対策を評価するための二つの基準を定める。
- ③ 座標軸に記入した付箋を置いていく。（とりあえず、自分が考えた場所におく。）
- ④ 班で話し合いながら付箋を貼る位置を修正していく。

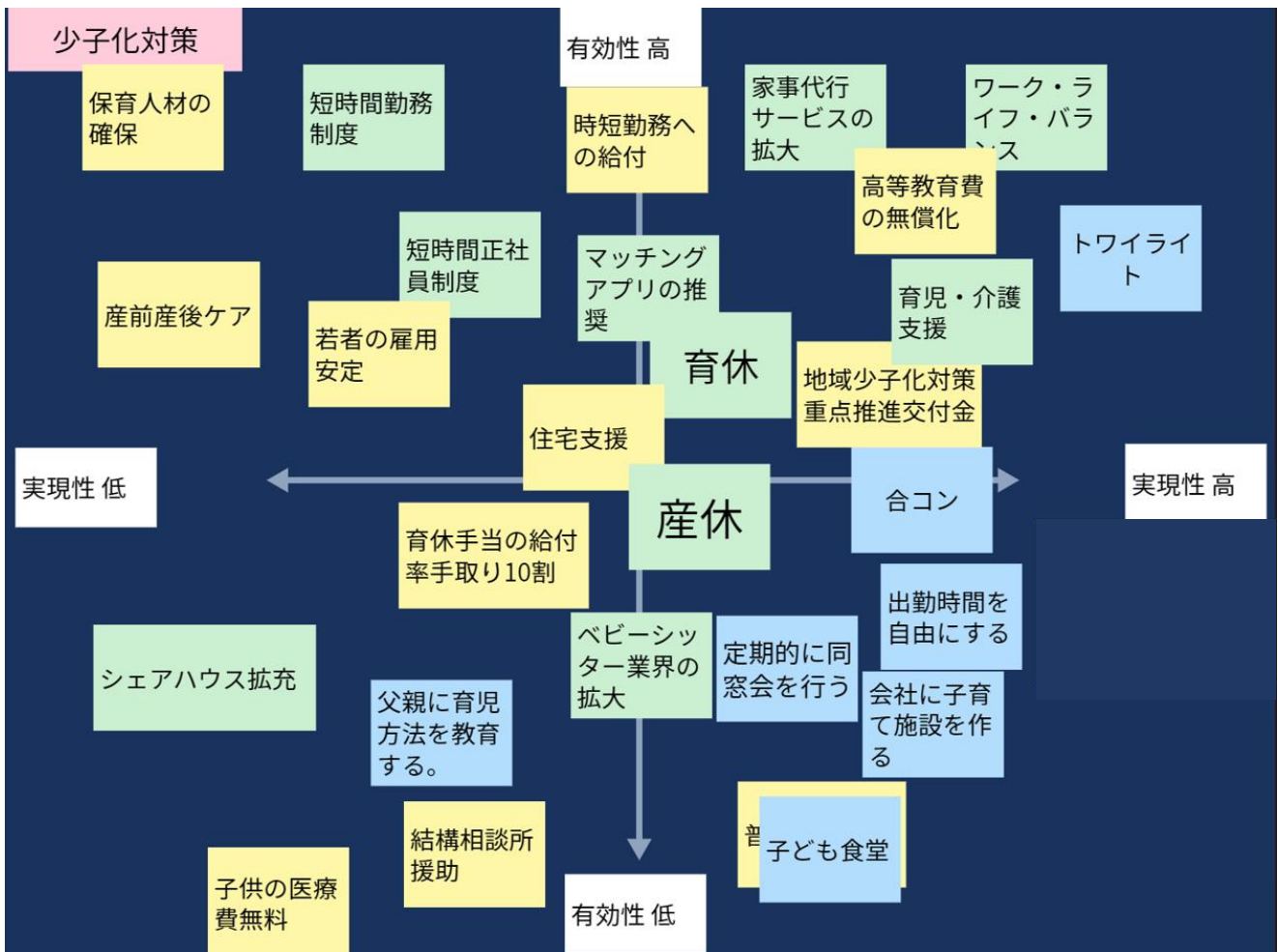
生徒たちはこの手順に従って、アイデアを整理した。評価軸としては、「有効性」「実現可能性」の他に「チャレンジ性」「協調性」「効率性」「即効性」「革新性」「破壊性」などが挙がった。

※生徒に例示したもの



※生徒が実際にまとめたもの





IV Ⅲのまとめを踏まえて、少子化対策は自助・共助・公助をどのような割合で実施していけばよいだろうか。再度検討しよう。

V 発表準備をしよう。

どのような理由でⅢのまとめになったのかを2分で説明しよう。全部を説明することは不可能なので、ポジショニングマップの右上を中心に説明してください。

STEP3 グループのまとめを発表しよう。

他のグループの発表を聞いて、気付いたことや疑問点、(建設的)批判などをまとめよう。

班 No.	気付いたことや疑問点、(建設的)批判
1	周囲とのコミュニケーションを有効性が高いとしているが、理由が不明 自助ではカバーできる範囲は狭い
2	業務の効率化の中身が不明 私たちの班では出ない話題で興味深かった
3	「自助」に革新性が高いものはあるのか？ 個人の努力には限界があるという考えは私たちの班と同じだった
4	共助重視は面白いが、共助で有効性が高いものは挙げにくいのでは？ 効率性を高めると倫理観が欠如するという考え方は面白い

他者との比較により、自分の考えを客観的に考察させることが狙い。ここでの考察を最終のパフォーマンス課題に反映させたい。

政治・経済 日本の少子化対策を考えるⅢ（ワークシート3）

STEP1 探究学習を通じた最終的な考えをまとめよう。

問題 少子化問題を解決するために、日本は今後どのような対策をとればよいと考えますか。今回の学習を踏まえ、自助・共助・公助の考え方にも触れつつ、あなたの意見を 350 字～450 字程度でまとめなさい。

少子化対策を考える上で自助・共助・公助のどれかにフォーカスを当てるのではなく、全て満遍なく行っていくことが重要だと考える。だがそれぞれの効果の程度には差があり、私は公助を重要視したい。少子化対策で重要なことは、金銭面、仕事面、精神面の3つであると思う。金銭面に関しては、補助金や教育費の無償化など公助が重要になってくる。仕事面では育休の整備などはもちろん、制度の整った職場に就くことや近所の人との交流を深め、子どもを預けられる関係をつくる自助や共助も効果的だと考える。精神面では政府がSNSを用いて子育て支援制度のアピールや子育てのメリットなどを発信して子育てに魅力を感じられるような取組みをしていくことも効果的だと考える。

個人的に推していきたい対策としては、介護施設と保育施設を融合したものをつくることである。高齢者は小さな子どもと触れ合うことで認知症防止などのメリットがあり、介護施設はたくさんあるので親は職場の近いところに預けられる。Win-Winな策であると思う。

この生徒は、少子化の要因を金銭面・仕事面・精神面の3側面に分類し、それぞれを自助・共助・公助の観点でどのように解決すればよいのか、自分なりに考察することができている。また、具体的な解決策を自分で調べた先事例を参考にしながらまとめることができているのでA評価とした。

STEP2 学習の振り返りを行おう。

(1) 今回グループで作成したポジショニングマップを、より論理的なものにするためにはどうすればいいでしょうか。

他班や自班の論理の正確性について吟味する必要がある。論理能力を高めるために、現代文と英語、数学の勉強（記述式）を頑張る。実際に行われている政策の効果を調べて、望んだ効果が得られそうか、自分たちが考えた方法を評価する。マッピングした際にはその批判も一緒にマッピングする方がよい。

(2) ロイロノートを使った学習はどうでしたか？感想を記入してください。

みんなで一緒に作業できるのは良い。色分けができて分類しやすかった。視覚化できるのでわかりやすい。様々なアイデアの関係性が分かるから意見を出しやすい。紙と手の方が皆で参加しやすい。

(3) 今回のグループワークの感想を記入してください。

自分のノートだと狭まってしまう視野も、様々な人と話すことで、考えたこののなかった視点から物事を考えられるようになった。自分の意見への感想がたくさん聞けたので面白かったし、勉強になった。少子化対策は未来の日本にとって重要なのでしっかり感がなければならないという認識は同じで安心した。協議を繰り返すことでより良い方法を見つけることの大切さも分かった。

(4) 以下の質問に対して自己評価を行い、

1-よくできた 2-できた 3-あまりできなかった 4-できなかった

の中から最も当てはまるものの数字を下の欄に書こう。

思考・判断・表現	① 「日本の少子化政策」について、論理的に考えることができた。	
	② 他者と議論することで、自分の考えを深めることができた。	

3 年 組 番 氏名： _____